レピラ地域交流だより

VOL.３発行：地域交流　　発行日：令和２年３月１５日

今号は、レピラ地域交流の事業紹介と前期教室募集のご案内です。

気づき・感じる・考える「交流体験」より報告

（内容）

☆色々なコミュニケーション方法に気づく体験

☆誰もが一緒に楽しめることを感じる体験

☆身近なバリアを考える体験

交流体験は、依頼のあった市内の小・中学校に対して、障害についての理解を深めていただくことを目的として実施しています。

障害のある方々を講師に迎え、ふれあいの中で「気づくこと」「考えること」「感じること」を大切にしながら、レピラに移転したこの３年間で、合計１万３千人を超える子どもたちと交流を深めてきました。

今年度は、東大阪市社会福祉協議会・市内障害福祉サービス事業所の方々と連携を深めながら一緒に取り組む機会がさらに増えました。結果、子どもたちにより良い体験が提供できるようになり、この機会を通じて知り合った障害のある人たちと地域で気軽に声をかけあうという場面もうまれてきています。この体験が、お互いを理解し合い、一緒に地域で生活するという共生社会の第１歩につながることを願っています。

今後も、より多くの地域の方たちと一緒に「人と人をつなぐ役割」を意識しながら、交流体験を実施していきたいと思います。

東大阪市立玉川小学校　河原校長先生の感想

本校は今年度も４つの学年で、講師やレピラの方のお世話になり交流体験を実施しました。教科書だけでは学ぶことのできないことを子どもたちが考え、理解を深めることができるのが交流体験です。子どもたちはいつも目を輝かせながら交流を行っています。そして、みんなが思いやりの気持ちを持ち、どうすればよいかを考えて行動できるきっかけになっています。これからも交流体験を続けていきたいと考えています。

講師の山田氏
「子どもたちが『障害』について考えてくれるきっかけになればいいなぁと思ってます」

✽教室より　報告✽

はじめての手話教室

昨年5月より、東大阪市聴言部会のご協力を得て「はじめての手話教室」を開催しています。4名と少ない人数でのスタートでしたが、半年も立つころには10名以上になりました。開始まもなくは、「先生に迷惑をかけてはいけない」「こんなこと聞いていいのかな」と質問もできなかったのですが、現在では「次回はこんなことを聞いてみたい」と積極的に取り組む姿勢にかわってきています。普段の生活の場でも手話を役立てている方もおられ、この教室をはじめてよかったと感じています。

東大阪市身体障害者福祉協会 聴言部会　伊藤芳子会長の感想

東大阪市聴言部会は聴覚障害者の生活向上と親睦のために活動しています。昨年から、この手話教室に講師を派遣しました。

障害のある方に教えることは初めての事なので戸惑いました。しかし、受講生の皆さんはとても熱心で、楽しく手話でコミニケーションが出来て良かったと感じています。

～参加者の声～

- 優しく、楽しく、ゆっくり学ばせていただいています
- 先生も楽しい方が多いので楽しみです。難しいですが、もう少し時間が長ければいいなと思います。
- 毎日手話のことを考える時間が出来ました。
- 住所を手話で伝えることが出来ました。
- 指文字を覚えられたので、使ってみたいです。
- 自分から聴覚障害者の人に挨拶することが出来ました。会話をすることが出来てうれしいです。今度は手話の歌に挑戦したいです。

ハンドメイド雑貨

（初回は4/22　定員10名）

（4月・7月・10月・12月・3月の第4水曜日　10時～11時30分）

季節感のある手作り作品を作ってみませんか？
不器用だから、うまくできないからなどの不安はみんな同じです。やってみよう！でチャレンジしましょう。講師の先生も優しく教えてくださいます。

材料費　実費

※来年の３月末日までの開催

フリーアート

（初回は4/11　定員10名）

（第2土曜日　14時～15時30分）

その日感じたものをそのまま絵にしてみませんか？　絵の具・クレヨンなどのいろいろの画材を使って、絵を描きます。親子での参加歓迎。楽しくアート体験をしましょう。

※来年の３月末日までの開催